地域と共に「こども防災キャンプ」

徳島県美馬市　こおざとまちづくり協議会

協議会の活動

徳島県西部に位置する美馬市の、こおざと地域は全国の地方市と同様に少子高齢化が進み、平成29年3月に小学校が閉校となった。

閉校となった小学校を今後も地域の交流、活用の場として残していくことを目的として跡地利活用協議会（後に、こおざとまちづくり協議会）を校区自治会の自治会長を中心に立ち上げた。

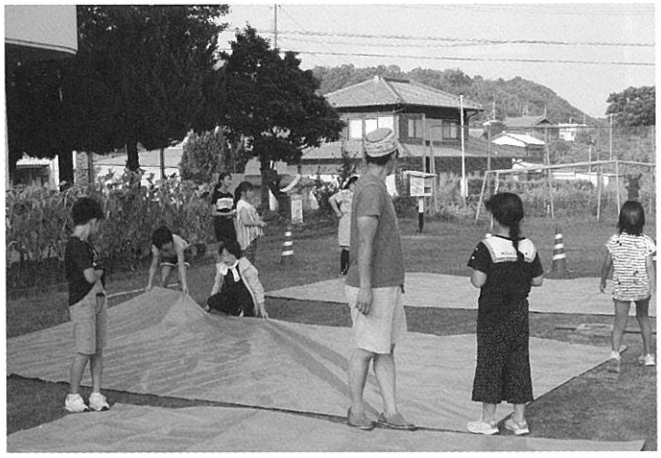
利活用方法をめぐり、活発に論議される中、跡地を開催場所にした地域交流イベントを実施していくことが立案され、実行に移された。

今では、四季を通して様々なイベントが開催され、大勢の方が参加する、愛された地域の行事となってきた。そのイベントの中の一つに「こども防災キャンプ」がある。

防災に対する意識の向上

幸いなことに、こおざと地域にはここ数十年大きな災害が発生しておらず、災害に対する気の緩みがあり、防災も行政任せの感がある。自治会を中心とした防災訓練でも高齢者が中心の活動で、子どもたちの参加はほぼ皆無であった。

小学校は閉校になったとは言え地域の避難場所にも指定された重要な場所でもある。その場所で今までの防災訓練では経験のない子ども主体の、2日間に渡る「防災キャンプ」の企画運営は子どもたちだけでなく大人の方への防災意識の向上を図る上で重要と考え主



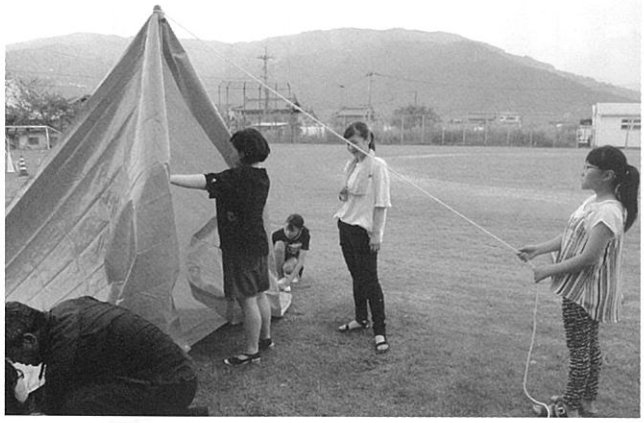
ブルーシートテント設営時

要イベントとして定着させてきた。

主な活動

防災キャンプを開催するに当たっては子どもの防災訓練などを主催するＮＰＯ法人指導員の指導を受けながらの事前打ち合わせ、学校との調整と地域住民への周知、使用する材料の調達、そして何より参加する子どもと保護者への説明と協力要請など初めてづくしの中、協議会メンバーのやる気は満々だった。

そして「安全かつ楽しく、遊びながら学べる」をモットーに「こども防災キャンプ」はスタートした。



出来た！ブルーシートテント

宿泊訓練

災害時、避けては通れない避難場所での生活をどのように過ごすかを中心に置いた訓練を実施した。

宿泊は避難場所でもある体育館を使用し、ベッドも自分たちで作る。材料はダンボールで、メンバーの一人が勤めていた事業所から許可を得て収集、その量なんと軽トラック3台分。子どもたちが最も興味を示し、製作に意欲を燃やしたのが、このダンボールベッドだった。実施した時期が初冬の11月で寒さも気になったが翌朝の集合ミーティングでも「よく寝ることができた」との声が多かった。

2年目（平成30年）も同じく11月に開催、今回は体育館が避難所での満杯の想定で、グラウンドにテントを立て、経験済みのダンボールベットを入れて宿泊した。テントも市販の物ではなく、どこにでも1枚や2枚はあるブルーシートと近所から切り出した竹竿とロープを使い、指導員の指導で班毎に立てた。子どもたちはテント作りとロープワークに夢中で取り組んだ。

3年目（令和元年）もグラウンドにブルーシートテントを立て宿泊するが、開催は真夏

防災に関するグループワーク

講師による防災講演

の8月で、指導員からは暑さ対策としてテントの入口を風上にするなど、風通しを良くする方法などを学び、熱中症に注意しながら作業を行った。

夜間訓練

宿泊準備が整ったあとは、非常食にレトルトカレーなどの定番から子どもたちが考えたものまで毎年趣向をこらした食事作りを行っている。

防災キャンプ―やりきった後の集合写真

食後は班毎に分かれ、住宅地から避難場所までの時間や明るさ、そして危険な個所はないかなどの点検と確認をメモしながら歩き、地域の住宅をアポなし、仕込みなしで訪問し、訪問趣旨を説明したうえで安否の確認、困りごと確認などの模擬訓練を行い、班毎に発表することを毎年続けている。

朝訓練

朝は自分たちで火をおこし、持ち寄ったお米を竹の飯ごうで炊き、缶詰と野菜でおかず作り、参加者全員で分け合いながらの炊き出し訓練を行った。また、年によっては住民たちと一緒に、避難民が多くなった時の訓練で、大人数分の朝食の作り方などを教えてもらい、班毎に時間を分けて順番に食べるなどの避難時には必要な方法も学んだ。

朝食後、新聞紙スリッパ作りや災害○×クイズ、非常時持ち出し品クイズなどを学び、最後はキャンプで使用した、ダンボール、ペットボトル、食器、新聞紙、残飯などの材料を美馬市のリサイクル方法に沿って区別する「整理整頓・完全撤収」が毎年の重要な訓練である。

最後に参加者からは「来年も、再来年も来る」との声が聞かれ、1回目小学生だった子どもが中学生になっているなど、3年連続参加の子どもも多く、リーダー的役割が自然と身に付き、初参加者に率先して指導ができるようになってくれた。3回目には大学生もオブザーバー参加し、指導員との調整役や、時には子どもたちの遊び相手にもなってくれる。

避難所生活はできることならしたくはないが、万一の場合には実際に行動できる若い力が少しずつ育ってきたのは嬉しい。

キャンプでの活動記録などは「こども防災キャンプだより」として毎年、周辺自治会や住民に配布し共有化をはかっている。

（こおざとまちづくり協議会副代表　真鍋勉）

四季イベント―秋祭り（こども神輿）